



栗原のふつう

— 宮城県栗原市

よくある地方のごくありふれた
ふつうのまち。

空が広くて、山があって、地面があって、
水が流れて、田畑があって、

生活している人がいる、ふつうのまち。

でも、栗原のふつうをよく観ると、
ふつうだけどふつうじゃないのが
観えてくる。

オーソドックスな日本のなかの、
とっておきのふつうが観えてくる。



一般社団法人

くりはらツーリズムネットワーク

<http://ktnpr.com/>

001 ほんによ

9月から10月までの稲刈りシーズンに登場する栗原の秋の風物詩「ほんによ」。

刈り取った稲穂を「ニオ」にする「穂」の「ニオ」です。

地域や人によって発音は様々で、「ほによ」、「ほんによ」、「ほによ」などと言います。

こちらの「ほんによ」は、栗原市一迫の田んぼで撮影したものです。背景には栗駒山が見えます。

「ほんによ」は、バインダーなどで刈り取った稲穂を外側に向けて稲杭に架けて、天日で乾燥させる作業方法の名称であり、その結果の呼称です。全国的には、「棒干し」といいます。

10日間から2週間ほど乾燥させた後、「とっけす」といって、根本を外側にして架けなおし、さらに天日で乾燥させます。

稲穂が架けられていない稲杭は、「とっけす」用にあらかじめ打たれているものです。

ちなみに、稲穂の向きを交互にして架けたものは、らせん状になることから「ねじりほんによ（ほんによ）」といわれています。